

いのちの授業～「いのちを大切にすることを育む」(8/7)

NPO 法人いのちをバトンタッチする会
代表 鈴木 中人

1. いのちをみつめる意味

(1) 大切にすること

◇心を育む

→心と知識の関係、心を育む順番 何を大切に思うか

→いのちの感性 生かされている、かけがえがない、つながっている、愛され支えられている

◇いのちの授業、セミナー

→自問自答、 気づき、 本当に大切なこと・自分の幸せ

2. いのちの授業

(1) 小児がんで死んでいく少女と家族の姿

(2) 大切にしたいこと

・生き抜く →一生懸命に生きる、人は必ず死ぬ、いのちの輝き

・支え合う →一人で生きられない

・ありがとう →みんな同じ、難有＝有難し、流した涙の分だけ幸せになれる

・心と体のいのち

3. いのちを育むために大切なこと

(1) 愛情＝愛されている実感

→発達課題、 いのちの教育＝×知識・やり方 ○愛情

(2) 死に向き合う

→子どもは死をどう感じるか？

→死をみつめる＝生きる、いのち

→いのちの真理＝人は必ず死ぬ、いのちに限りがある。

死んだら生き返らない、かけがえがない。

遺された人は涙を流す、自分だけのものでない。だから、いのちを大切にすること。

(3) いじめ、自殺

→死にたい子どもの心＝絶望的な孤立感

→まず、すべきこと 子どもの心の変化

→いのちの目線＝個人と環境の両面、 自己責任≦社会連帯、 明日は我が身

→「自分の普通」と「違う普通」を知る、体験。

いのちを感じる、答えを急がない、思いを重ねる

(4) がん教育を「いのち」学ぶ場に

- ・がん教育の歩み：第2期がん対策推進基本法 予防・検診+いのちの大切さ 2017年度より本格化
- ・全国的に「ほぼ同じ内容」(2期計画がベース)
- ・がんは国民病 がん教育を日本の健康&いのちの教育の中核に
土台作り →課題にニーズを見据えて、進化、深化 →中核教育に

<課題>

- 大人のがん中心、小児がん(含AYA世代のがん)が教えられていない
- 小児がんへの偏見、無理解
- 当事者として、想像する・考える機会が少ない
- いのちの大切さを考える機会にする
- 闘病中の子ども、家族への配慮する
- 現場の教師が主体となって教える
- 発達課題段階に応じた、がん教育体系の「見える化」

<がん教育と方向性(一案)～小児がんを題材にした「いのちの授業」>

① 副教材を制作&モデル授業提案

- ～「小児がんを知り いのちの大切さを 学校で学ぼう」プロジェクト
- 小児がんを発病した二人の少女の実話から、「がん・小児がん」「いのちの大切さ」を学ぶ
- 「いのちをバトンタッチする会」公式サイトから副教材を無料ダウンロード可
*授業指導案、冊子、事例DVD、絵本の朗読(you tube)

② 講演スタイル (いのちの授業+がん教育)

- 質問、がん・小児がんとは、病気を知る・実感する、大切にしたいこと(予防、検診)
- 小学生向、中学生以上向、教師・一般向

③ 10代向の本の出版・活用

- ～「いのち と がん・小児がん」を考える本を学校に届けよう!プロジェクト
- 10代の子どもが読める、心に届く「いのち がん・小児がん」を学ぶ本
道徳、総合的な学習の時間、保健やがん教育、朝礼、帰りの会などでも活用できる
- 子どものための「いのちの授業」 鈴木中人著 致知出版社 1300円(税別)
- 10の実話とメッセージ、1話・10分の読み物、実話+いのちの質問+いのちのメッセージ
いのち・小児がんを知る、実感する

(5) いのちのつながり

- いのちのつながり=家族の絆
- 家族=人生を営む場、危機を乗り越え成長、寄り添う

4. いのちの願い

- ・小さな実践、いのちを大切にしているか、かけがえがない・愛され支えられている
- ・いじめ、自殺、心の病 → 絶対、親より早く死んではいけない!

以上